

2023反核燃・秋の共同行動 in むつ

と き：11月11日（土）午後2時

ところ：下北文化会館2階大集会室

- 六ヶ所再処理工場本格操業反対！
- 東通原発東京電力1号機建設反対！
- 大間原発絶対反対！

- むつ使用済核燃料中間貯蔵施設反対！
- 東通原発東北電力1号機再稼働反対！
- フクシマを忘れない！

むつ中間貯蔵施設が8月末に原子力規制委員会の審査が大筋終了したと報じられています。

しかし、肝心の貯蔵終了後の搬出先や貯蔵期間中のトラブル対応などは何一つ解決していません。

このままで受け入れることは故郷を「核のゴミ捨て場になることは必至です。今一度、この問題を考えてみませんか。



【プログラム】

- ・現地実行委員長あいさつ……………原発核燃をなくす下北の会 中島寿樹
- ・基調提起「むつ中間貯蔵施設」の現状……………現地実行委員会事務局 栗橋伸夫
- ・基調報告「六ヶ所再処理工場」について……………核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団 山田清彦
- ・特別提起「下北の住民運動の持つ意味」……………前橋国際大学准教授 西館 崇
- ・ビデオ上映……………①ドキュメンタリー映画「シロウオ～原発立地を断念させた町」(30分)
②関西テレビニュース「使用済核燃料中間貯蔵と核燃サイクル」(13分)
※ウラ面に上映ビデオの詳細が記載されています
- ・閉会あいさつ……………核の中間貯蔵はいらない！下北の会 野坂庸子



反核燃秋の共同行動 in むつ現地実行委員会委員長 中島 寿樹
〔事務局連絡先〕 090-8924-5462 (栗橋)

「シロウオ～原発立地を断念させた町～」

30年以上も前、住民の反対運動により、原発計画を追い出した町があった！

原発事故が起きた今こそ考えたい
なぜ原発マネーを拒否できたのか



故郷を、自然を、仕事を、そして家族を守りたい……原発反対運動を成功させた人々の証言ドキュメンタリー

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故により、広く国民に原発の危険性が知れわたることとなったが、今から30年以上も前に、「いつか必ず原発事故が起きる。危険な原発は建てさせない」と住民が反対運動を行い、原発計画を断念させた場所が全国に34カ所あった。

中でも紀伊水道をはさんで、双方の住民たちが協力し合い、原発計画を断念させたのが、徳島県阿南市椿町の「蒲生田原発」と、和歌山県日高町の「日高原発」だ。

南海トラフ三連動超巨大地震が心配される今、全国各地の原発再稼働が争点となっているが、なぜ彼らはチェルノブイリ原発事故や福島原発事故が起きる前に、危険性に気づき、計画を追い出すことができたのか。

当時、反対運動に関わった住民などにインタビューし、彼らの証言を中心に映像にまとめたものの短縮版。(上映時間30分)

「当時の住民は賛成派も反対派も、みんな原発が危険であることはわかっていた。ただ原発がなくても生きていける自信を持っている人々が反対できた」

(元) 京都大学原子炉実験所助教
小出 裕 章



関西テレビ news ランナー
8月9日放送映像
明治大学勝田忠弘教授が「核燃料サイクル政策の破綻」、「中間貯蔵施設の問題点」を解説しています。

速報 関西電力社長 “中間貯蔵施設問題”取材応じる
山口県内での建設計画が浮上

関西電力
中国電力

中間貯蔵施設 建設調査の意向

きょうの聞きたい 何する施設? なぜ必要? 課題は?

